

令和5年度第1回新潟市健康づくり推進委員会会議概要

日時： 令和5年7月31日（月）

午後7時から8時30分

会場： 新潟市総合保健医療センター2階 講堂

1 出席者

【委員】

伊藤委員、岡田委員、関委員、田邊委員、椿委員、出戸委員、長谷川委員、村山委員、森田委員、山田委員、吉田委員、葭原委員、和泉委員、和須津委員、渡邊委員

【庁内関係課】

スポーツ振興課、地域包括ケア推進課、保険年金課、こころの健康センター、保健所保健管理課、食と花の推進課、各区健康福祉課、保健給食課、学校支援課

【事務局】

保健衛生部長、保健衛生部医監、保健所健康増進課長、ほか保健所健康増進課職員

【傍聴者】 1名

2 議事

1 委員紹介

2 議題

- (1) 新潟市健康づくり推進基本計画（第3次）数値目標現状報告及び基本方針別取組状況
 - 基本方針1 生活習慣病の発症予防と介護予防
 - 基本方針2 生活習慣病の早期発見・早期治療
 - 基本方針3 生活習慣病の重症化予防
 - 基本方針4 地域に密着した健康づくりの推進
- (2) 新潟市健康づくり推進基本計画（第4次）について

3 概要

<議題1 新潟市健康づくり推進基本計画(第3次)数値目標現状報告及び基本方針別取組状況>

- 基本方針1 生活習慣病の発病予防と介護予防

【事務局説明】

- ・「にいがちよいしおプロジェクト」では、市内飲食店と連携し、減塩で野菜摂取に配慮したメニューの提供を継続実施。中央区の取組であった「ヘルシーランチ提供店」へのプロジェクト参加の呼びかけや、無関心層への働きかけを目的としてラーメン店での取組を充実させるなどし、店舗数増加につなげた。
- ・運動習慣定着の推進として、事業所単位で一定期間歩数を記録する「ウォーキングチャレンジ」を継続実施。アプリを活用したコースを新設し、参加事業所数が増加した。また、市民向けのウォーキングチャレンジを初開催した。

- ・高齢者の健康づくりとして、「フレイルチェック」をR4年度は南区・西蒲区を加えた7区18地域で実施。今年度は西区を加え、市内8区すべてで実施中。

【意見、感想】

- ・フレイルサポーターはどのように活動しているか。
→勉強会を受けてサポーターになるが、フレイルチェック当日はトレーナーも同席する。東大飯島先生のスキームをもとに、フレイルの簡易検査と深掘り調査を実施している。
- ・フレイルチェックだけではなく、研修により簡単な指導もできるようになるとよい。歯科保健の分野でも関われる可能性があると考える。
- ・リピート率の向上をフレイルチェックの課題としているが、繰り返し指導することの他に、幅広く指導することも重要である。
- ・フレイルチェックで課題があった場合の指導、対策は。
→トレーナー含め、サポーターの知識向上など質の向上を図るため、今年度サポーターの研修等を計画している。
- ・食生活改善推進委員の活動の中で、カルシウムの多いメニューのレシピを地域の茶の間等で説明するなど、食の分野においてもフレイル予防を推進している。フレイルサポーターの他、運動普及推進委員も体操等を通じてフレイル予防を推進している。
- ・事業に参加した人の感想等はまとめ、公表しているか。
→アンケートにて参加者の声を把握。ウオーキングチャレンジ事業においては、アンケート結果をまとめ、市ホームページ等で公表している。
- ・学校授業で中学校区別の市健診データを使用しているが、生徒にとって身近な地域のデータはインパクトがある。地域住民がこういうデータを知る機会はあるか。
→各区役所において、健康教育等、地域に出向き報告している。
- ・少子化の影響で学校の統廃合が進み、スクールバスの利用率が高まり、歩く機会が減少している他、運動嫌いや中学校の部活動の地域移行等により、子どもたちの運動量の減少が生じている。成人だけでなく、子どもの運動不足も課題であり、将来の生活習慣病が懸念される。

○ 基本方針2 生活習慣病の早期発見・早期治療

【事務局説明】

- ・新潟市国保特定健診受診率は、新型コロナウイルス感染症の影響により令和2年度に一旦低下したが、令和3年度は前年度より上昇し回復傾向にある。コロナ禍前の水準に戻すべく、受診率向上に向け、未受診者に対しナッジ理論に基づく受診勧奨通知やSMSによる案内等の取組を実施。
- ・特定保健指導においては、各区役所や委託医療機関で実施。支援状況により、ICTを活用し実施。

○ 基本方針3 生活習慣病の重症化予防

【事務局説明】

- ・医療機関未治療者および糖尿病治療中断者に対し、通知による受診勧奨と保健師による保健指導を実施。
- ・糖尿病性腎症重症化予防事業では、重症化リスクが高い人に対し保健指導を実施。

○ 基本方針4 地域に密着した健康づくりの推進

【事務局説明】

- ・従業員の健康管理を経営的な視点で健康経営に取り組む事業所を認定する「新潟市健康経営認定制度」では、令和4年度は新たに36事業所が認定された。また、優秀な事業所の表彰やセミナー開催などを継続実施し、健康経営の取り組みを支援した。
- ・若い世代からの歯周病予防を推進するため、事業所と連携し、歯周病のスクリーニングや予防に関する知識啓発を行う「歯周病見える化事業」を実施。

【意見、感想】

- ・健康経営認定事業所における従業員50人未満の事業所の割合は、健康経営に取り組む企業とウオーキングチャレンジ参加企業との関連は。
→50人未満の事業所は半数より多い。健康経営、ウオーキングチャレンジ、それぞれの事業において、双方向で情報発信等、働きかけを実施している。
- ・指標において肥満やメタボの数値が悪化しているが、健康経営認定事業所では健康経営の取組により健診数値の改善が見られているなどのデータはあるか。数値の変化を把握することにより、どういう取組をすると効果的であるか知ることができる。
→ゴールドクラスの応募用紙に健診数値の記入欄があるが、数値の変化よりも健診数値を把握しているかどうかということを目的にしており、効果検証までに至っていない。
- ・歯科医院を新たに受診するのはハードルが高いが、歯みがき、歯間ブラシの使用等のセルフケアはハードルが低く実施できるため、そういう評価も踏まえ実施してほしい。
- ・歯周病見える化事業の令和4年度の実施数が増加しているが、どのように周知したのか。
→健診機関に事業委託し、その健診機関より職場健診の案内と合わせ積極的に周知した。事業開始が令和3年度は9月だったが、令和4年度は6月と時期を早めたことも影響した。

<新潟市健康づくり推進基本計画（第4次）について>

【事務局説明】

- ・今春公表された、国計画「健康日本21（第三次）」の基本的な方針を加味し、新潟市においても、引き続き「健康寿命の延伸と健康格差の縮小」を最上位の目標に、個人と環境の両側面により健康づくりの取組を推進する。新潟市健康づくり推進基本計画（第4次）は、現行の第3次計画の内容を継承しつつ、国が示す「ライフコースアプローチを踏まえた健

康づくり」という新たな視点も踏まえながら策定する。

- ・新潟市健康づくり推進基本計画（第4次）の計画期間は、「健康日本21（第三次）」に合わせ12年間とし、令和7年度～18年度までとする。データ分析や市の関連計画を踏まえた行動計画である「新潟市健康寿命延伸計画【アクションプラン】」を統合する。
- ・今年10月に実施する市民調査にて、達成状況の確認と次年度計画策定に向けた現状把握を行い、調査結果については今年度第2回健康づくり推進委員会にて報告する。
- ・「健康日本21（第三次）」で新たに追加・修正された指標「血糖コントロール指標におけるコントロール不良者の割合」「睡眠時間6～9時間の者の割合」を、新潟市健康づくり推進基本計画（第4次）においても追加し評価する予定である。

【意見、感想】

- ・全国的な課題となっている少子高齢化は、計画策定において専門家の高齢化という点でも影響しうると考える。計画の指標の設定や評価等、余力のあるうちに検討した方が良い。
- ・健康日本21では20歳未満の飲酒や喫煙が指標になっている。例えば戒人式で喫煙率調査を行うなど、自身の生活スタイルを築く基礎となる年齢である20歳を対象に定点観測するような調査を検討してほしい。
 - 若年の数値について、市民調査の他、関係機関と連携して新たな調査の可能性を含めて検討したい。
- ・資料に次期計画の指標が掲載されているが、その前に市として目指す方向性を議論すべき。
 - 市次期計画の方向性は現行第3次計画と大きく変わるものでなく、踏襲する方向で検討している。国計画の指標が示されたことから、市次期計画の指標との整合性を図っている。
- ・健診受診率を上げることにより国から市町村に補助金が入る等の措置があると思うが、目標を達成しない場合のペナルティはあるか。
 - 保険者における保健事業等に対する取り組みを評価し、基準を達成した保険者に補助金を交付する「保険者努力支援制度」がある。特定健診受診率も評価指標となっており、受診率応じた配点基準がある。
- ・喫煙については受動喫煙防止、禁煙があるが、喫煙防止の観点より新規に喫煙者を増やさない防煙対策が重要。生活習慣の土台作りとなる20歳未満に向けた取組や指標が必要。
- ・糖尿病を中心に生活習慣病予防のためのセミナーや重症化予防事業を実施しているが、糖尿病対策においてはある程度フォローアップが必要と考える。
- ・内臓脂肪を意識・可視化するため、予算があれば市民へ啓発の一環として、公共施設に体組成計を設置してほしい。
- ・指標案にある睡眠時間は昼寝の時間を含むか。
 - 国の指標に合わせる方向であり、国の方針では規定はない。
- ・中学生で睡眠不足が問題となっている。子どもの睡眠もテーマに挙げてもらえるとよい。
- ・市計画においても、ライフコースアプローチの視点を強調するとよい。第三次計画では若

い世代への視点が弱いので、乳幼児健診や学校保健統計などを活用して、小児・学童期の取り組みが評価できるような指標も検討できるのではないかと。

- ・国計画（第三次）の概念図では少子高齢化社会に対応すべく「社会環境の質の向上」が強調されており、市計画でもその視点を強調するとよい。
- ・区における健康格差があればそれを解消し、どの区に住んでいても健康になれるよう、そういう視点を市計画の概念において検討してほしい。

【配布資料】

次第

出席者名簿

座席表

資料1 新潟市健康づくり推進基本計画（第3次）指標一覧

資料2 新潟市健康づくり推進基本計画（第3次）基本方針別取組状況

資料3 新潟市健康づくり推進基本計画（第4次）について